

第31回 Microwave Surgery 研究会 開催にあたってのご挨拶



第31回 Microwave Surgery 研究会
会 長 田伏 克惇

仲秋の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、この度、第31回 Microwave Surgery 研究会を、2012年11月8(木) - 9日(金)の2日間にわたり、大阪市北区、大阪大学中之島センターにて開催する運びとなりました。本研究会はこれまでの研究会発足から30年間にわたる surgery の歴史として特に、肝胆膵、消化管、腎、前立腺、膀胱、子宮、気管支、などに臨床応用がなされ市民権を得ているところではありますが、さらなる技術の開発、改良を積み重ねる必要があります。

第31回 Microwave Surgery 研究会のテーマを「新しい幕開け」とし、これからは microwave の手術デバイスの thermal effect だけでなく、non-thermal effect についても追及し、現代の機器の改良、開発、さらに新しい展開として病理診断、化学酵素反応、バイオサイエンスの領域にも研究を広げていきたいと考えています。

今回、「新しい幕開け」にふさわしいいくつかの特別な企画を用意させていただきました。特別講演を4題もうけ、大阪薬科大学有機薬化学研究室 春沢 信哉教授、和歌山県立医科大学 第一病理学 尾崎 敬先生、千葉大学病院 脳神経外科 村井 尚之先生、海外からは National Taiwan University Hospital より Kai-Wen Huang, M.D. にご講演頂きます。

また、市民公開講座では、先進医療であったマイクロ波によって子宮内膜をアブレーションすることによる過多月経の治療が保険診療として認められたことを記念して市民公開講座を開催します。

学術企業展示として米国コヴィディン社のマイクロ波手術器の展示も協力願えるよう準備しています。また我が国におきましてはアルフレッサファーマ社のマイクロターゼに限らず、サニーエンジニアリングから自動制御が特徴である半導体発振器による次世代の手術器、反応装置のアプリケータ等が展示されます。

ご多忙の中、誠に恐縮に存じますが、皆様のご参加をお願い申し上げます。

平成24年10月吉日